35 水の色に特徴のある湖にはどんなものがあるだろうか

日本には，これ以上にきれいな湖はないといわれるほど，形や水の色の変化に特徴がある五色沼（磐梯五色沼）は，明治21年の磐梯山(当時 1,840 mの小磐梯)の爆発による泥の流れのくぼ地に水がたまってできたものです。そして，その数は，約80余りに達することが知られています。

五色沼は，その名の示すとおり，湖面の色は非常に変化に富んでいます。たとえば図－102にも含まれていますが，弥六沼，西柳沼，小柳沼，柳沼などは緑色をしていて，璃沼（るり），青沼，弁天沼などは青色をしめし、竜沼，深泥沼（みどろ），赤泥沼は赤色をみせています。また，五色沼の入口の湖，毘沙門沼（びしゃもん）は帯赤青色に見えています。

そこで，青色をしている原因については，水が透明で，水中に青色を与えるようなイオンが溶け込んでいる（硫酸イオンのようなもの）ことがあげられています。赤色をしている原因は，鉄の沈澱物が多く含まれているものと考えられています（分析の結果によると硫酸塩や，湖底には白色のイオウや赤色の鉄，マンガンの沈澱物が多量に検出されています。

このように，五色沼は，水に含まれている固形物の量が特に多く，日本の湖の中では群をぬいています。普通は 1 ℓ 中に30㎎であるのに対して，約 200 ㎎にも達しているのです。

五色沼は，このほかに，湖底の岩石の色の違いや，周囲の植物の色，空の色なども複雑に組み合って，あのような神秘的な色をみせているのです。

一方，磐梯火山の影響をかなり受けていて，水は酸性をしめし，赤沼などは，ｐＨが3.3を示しています。深さでは，毘沙門沼が最も深く，13mぐらいになりますが，全般的には，泥流のくぼ地に水がたまったために，浅くなっています。

これらの湖は，図－102に示したように，地表の流れは，　璃沼→青沼→弁天沼→竜沼→深泥沼→毘沙門沼を通って長瀬川に流れ注いでいますが，地下水も，岩石の割れ目を通って複雑につながっていると考えられています。

このようにいろんな点で特徴のある湖ですので，中に住む生物にも特殊なものが見られます。まず，ほとんどの湖岸にはヨシが繁茂しています。ヨシはｐＨ3.3のようなところにも充分生育できるようです。